

# 柏市の人口動向について

令和元年8月30日  
柏市 企画部 企画調整課

# 直近の人口・世帯の状況

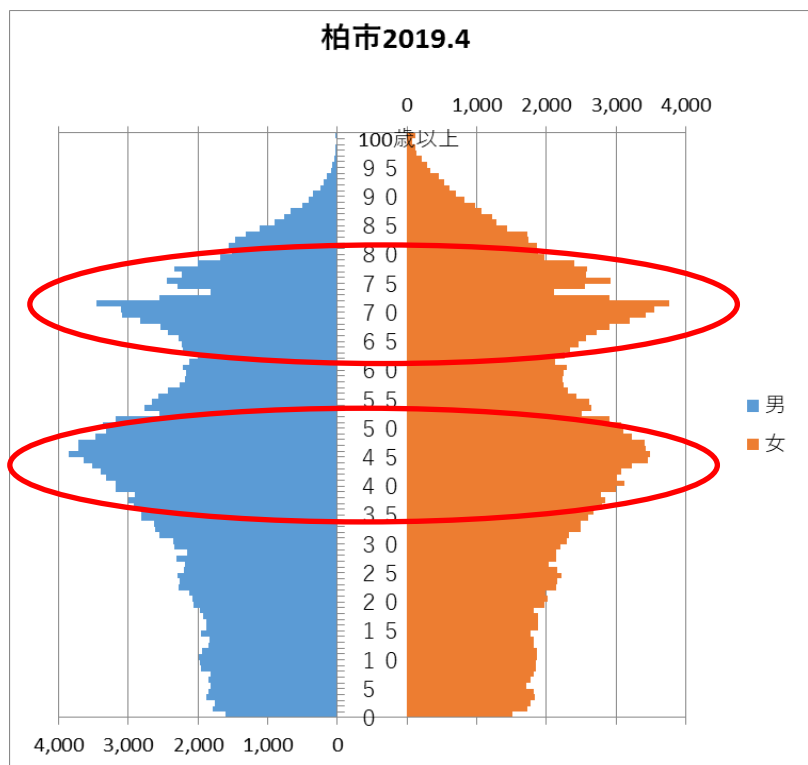
単位：人

常住人口	総数	男	女	世帯数
令和元年8月	428,667	212,373	216,294	189,779

単位：人

住基人口	総数	男	女	世帯数
令和元年8月	423,500	209,682	213,818	192,356

いずれも、柏市公式サイトより

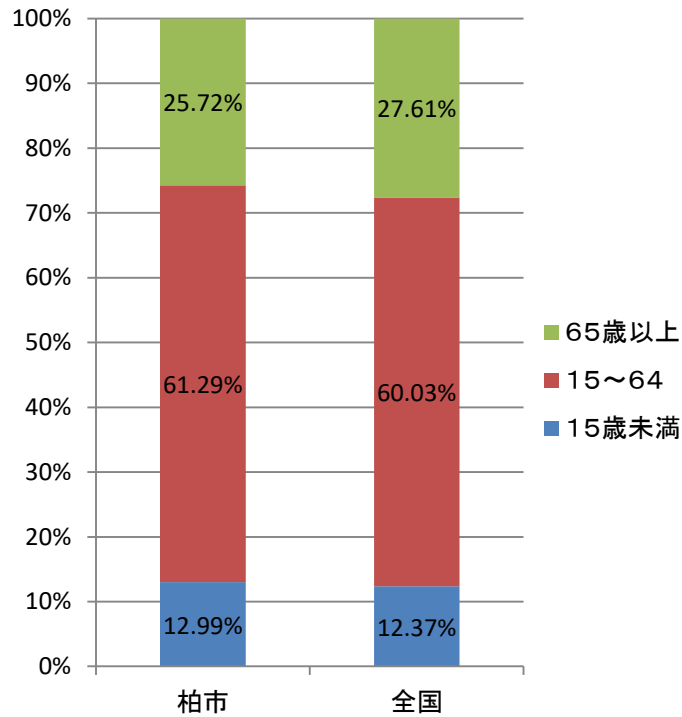


- 常住人口：H27国勢調査を基準とした人口  
住基人口：住民基本台帳への登録に基づく人口
- 人口ピラミッドは、いわゆる団塊の世代と団塊ジュニア世代の人数が多く、若年層ほど人数が少ない「釣り鐘」に近い形状です。

# ■ 年齢区分別の人口構成

単位：人

年齢3区分	総数	構成比	構成比(全国)
総数	421,057	100%	100%
15歳未満	54,683	12.99%	12.37%
15～64	258,070	61.29%	60.03%
65歳以上	108,304	25.72%	27.61%



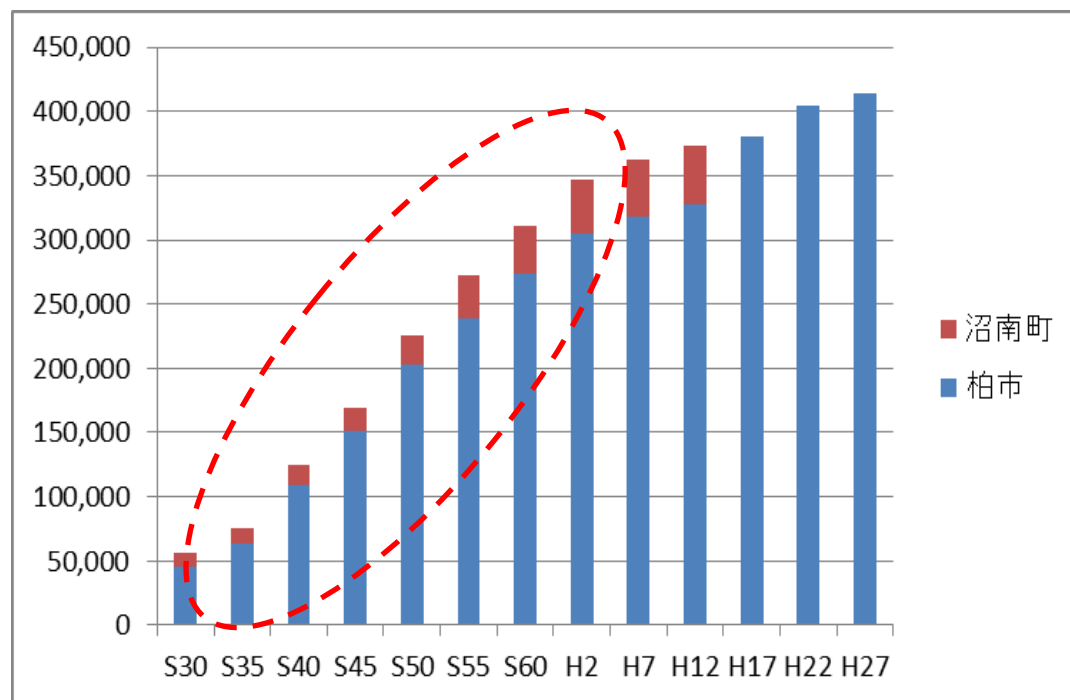
- 柏市と全国の年齢区分（3区分）別の構成比を表しています。
- 全国の構成比と比較すると、15歳未満の年少人口と15歳から64歳の生産年齢人口の割合がやや高く、65歳以上の老年人口の割合がやや低い状態です。

柏市住民基本台帳人口，住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数調査

# ■ 柏市の人口の推移①

単位：人

	S30	S35	S40	S45	S50	S55	S60
柏市	45,020	63,745	109,237	150,635	203,065	239,198	273,128
沼南町	10,911	11,849	15,262	18,480	22,150	33,706	38,027
<b>合計</b>	<b>55,931</b>	<b>75,594</b>	<b>124,499</b>	<b>169,115</b>	<b>225,215</b>	<b>272,904</b>	<b>311,155</b>
	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R1.8
柏市	305,058	317,750	327,851	380,963	404,012	413,954	428,667
沼南町	41,944	45,130	45,927				
<b>合計</b>	<b>347,002</b>	<b>362,880</b>	<b>373,778</b>	<b>380,963</b>	<b>404,012</b>	<b>413,954</b>	<b>428,667</b>



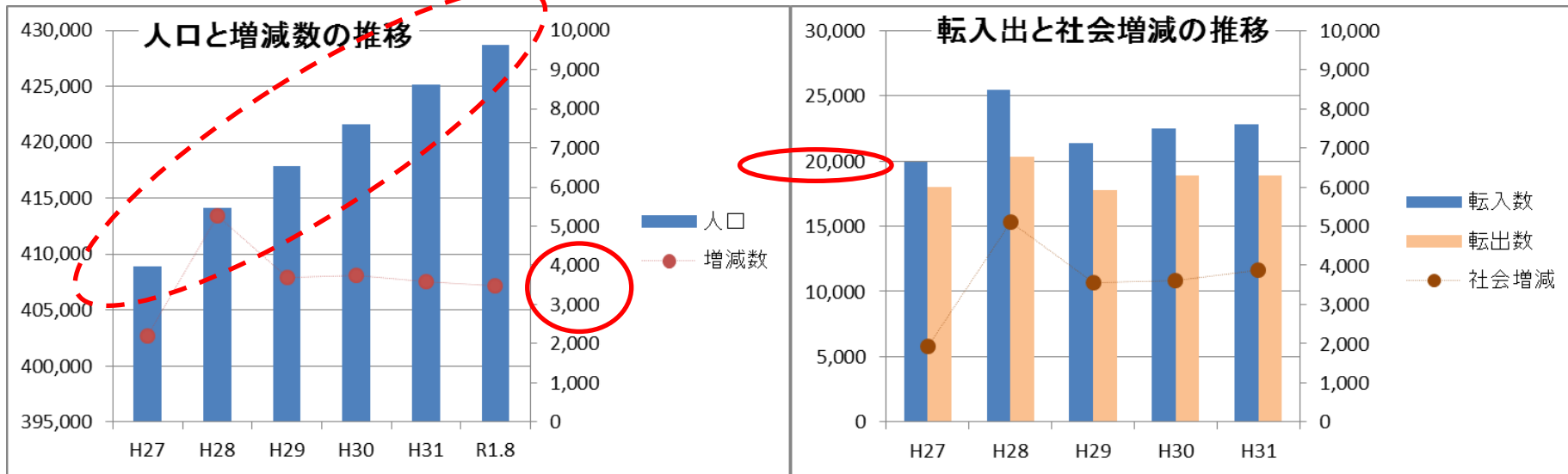
各年度国勢調査より (R1.8のみ、「柏市常住人口」)

- 昭和30年代後半から平成初期にかけて、1年間に1万人前後のペースで人口が急増しました。
- その後も緩やかに増加が続いています。

# 柏市の人口の推移②

単位：人

	H27	H28	H29	H30	H31	R1.8
人口	408,893	414,168	417,857	421,600	425,195	428,667
総増減数	2,207	5,275	3,689	3,743	3,595	3,472
転入数	19,887	25,453	21,348	22,516	22,779	
転出数	17,964	20,343	17,783	18,574	18,904	
社会増減	1,923	5,110	3,565	3,942	3,875	



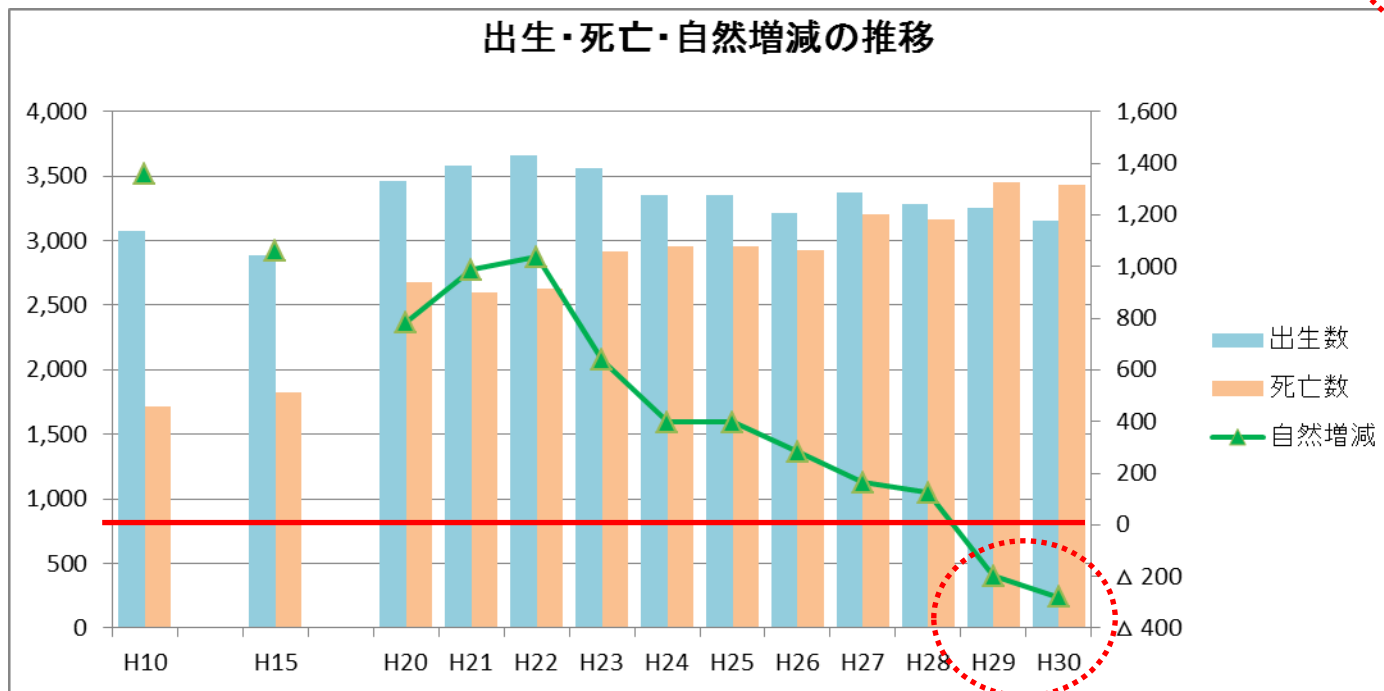
千葉県常住人口調査より

- ここ数年は、1年間の転入者が2万人強、転出者が2万人弱で、転入転出の差引である「社会増」が3,000人以上あり、人口は順調に増加しています。
- 平成30年度の調査（平成29年中の移動）で、「自然減」が発生し、「総増減数」が「社会増」を下回るようになりました。

# 出生・死亡・自然増減

単位：人

	H10	H15	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
出生数	3,073	2,890	3,461	3,584	3,662	3,557	3,356	3,356	3,212	3,370	3,286	3,254	3,152
死亡数	1,713	1,827	2,677	2,596	2,625	2,919	2,958	2,958	2,928	3,205	3,162	3,453	3,432
自然増減	1,360	1,063	784	988	1,037	638	398	398	284	165	124	△ 199	△ 280



千葉県常住人口調査より

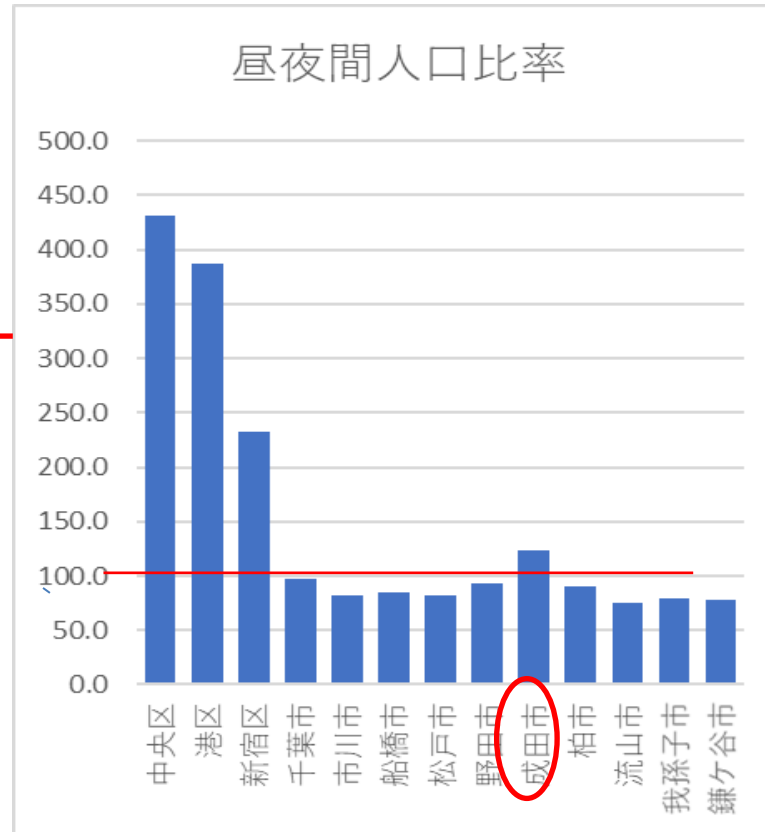
- 出生数は微減傾向にありますが、20年前とほぼ同じ水準です。
- 死亡数は増加しており、平成29年は死亡数が出生数を上回りました（自然減）。
- 今後、「自然減」の度合いは拡大するものと推察されます。

# 昼間人口と夜間人口

単位：%

市区名	昼夜間人口比率
千代田区	1,460
中央区	431.1
港区	386.7
新宿区	232.5
成田市	123.6
千葉市	97.9
市川市	82.2
船橋市	84.2
松戸市	82.0
野田市	93.8
<b>柏市</b>	<b>90.4</b>
流山市	74.9
我孫子市	79.1
鎌ヶ谷市	77.8

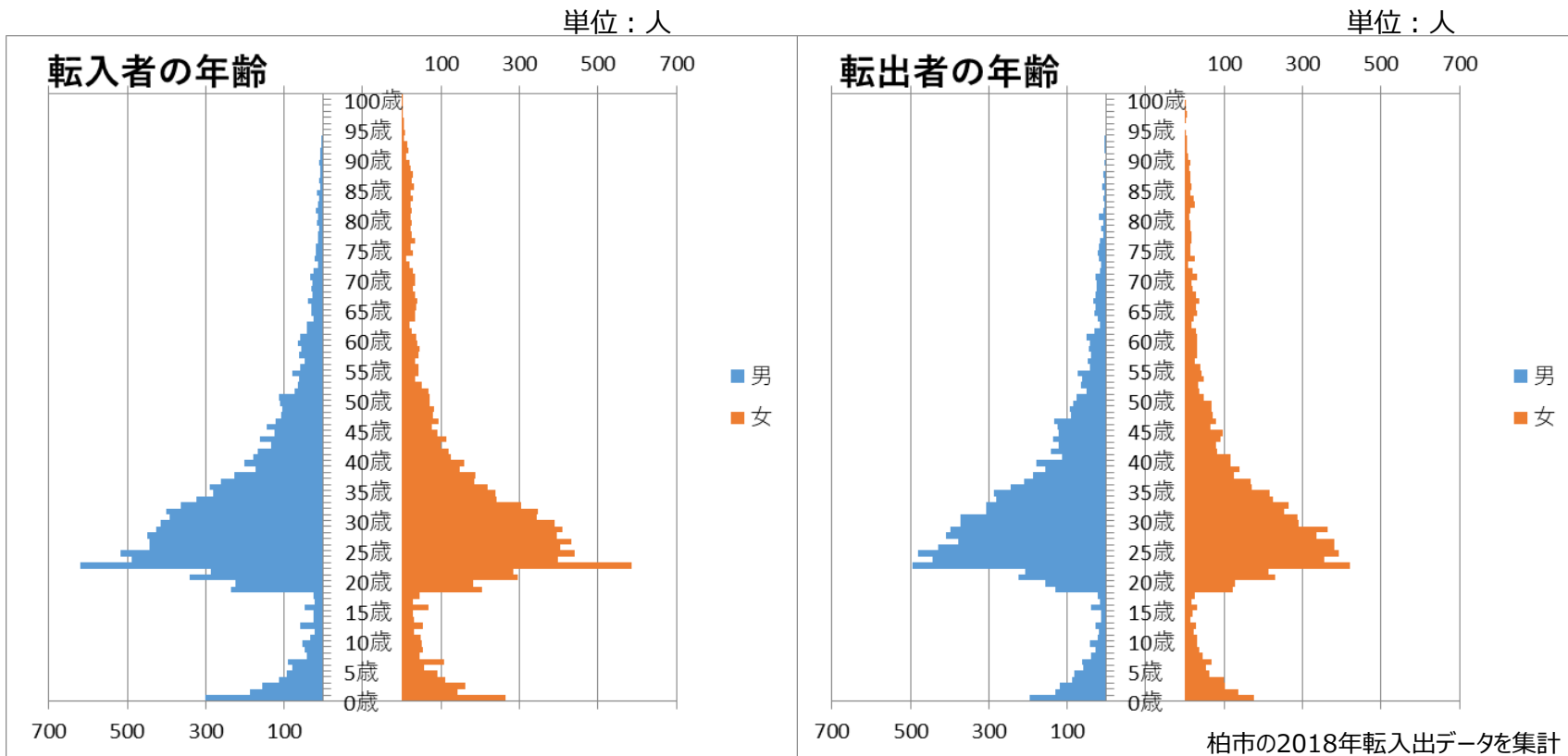
夜間より昼間の人口が少ない



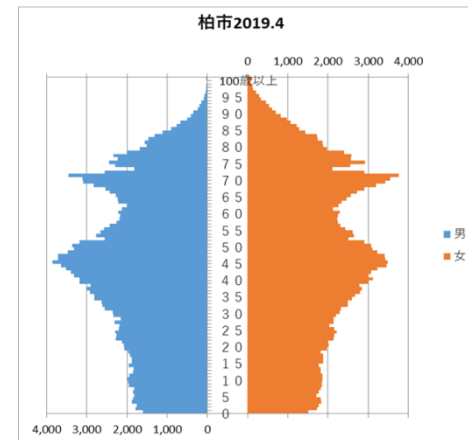
平成27年度国勢調査より

- 成田市を除き、千葉県内の主要都市は、昼夜間人口比率が100を下回っており、昼間に都内や周辺市に通勤・通学者が流出する「ベッドタウン」の特徴が表れています。

# 転入出の動向（年齢構成）①

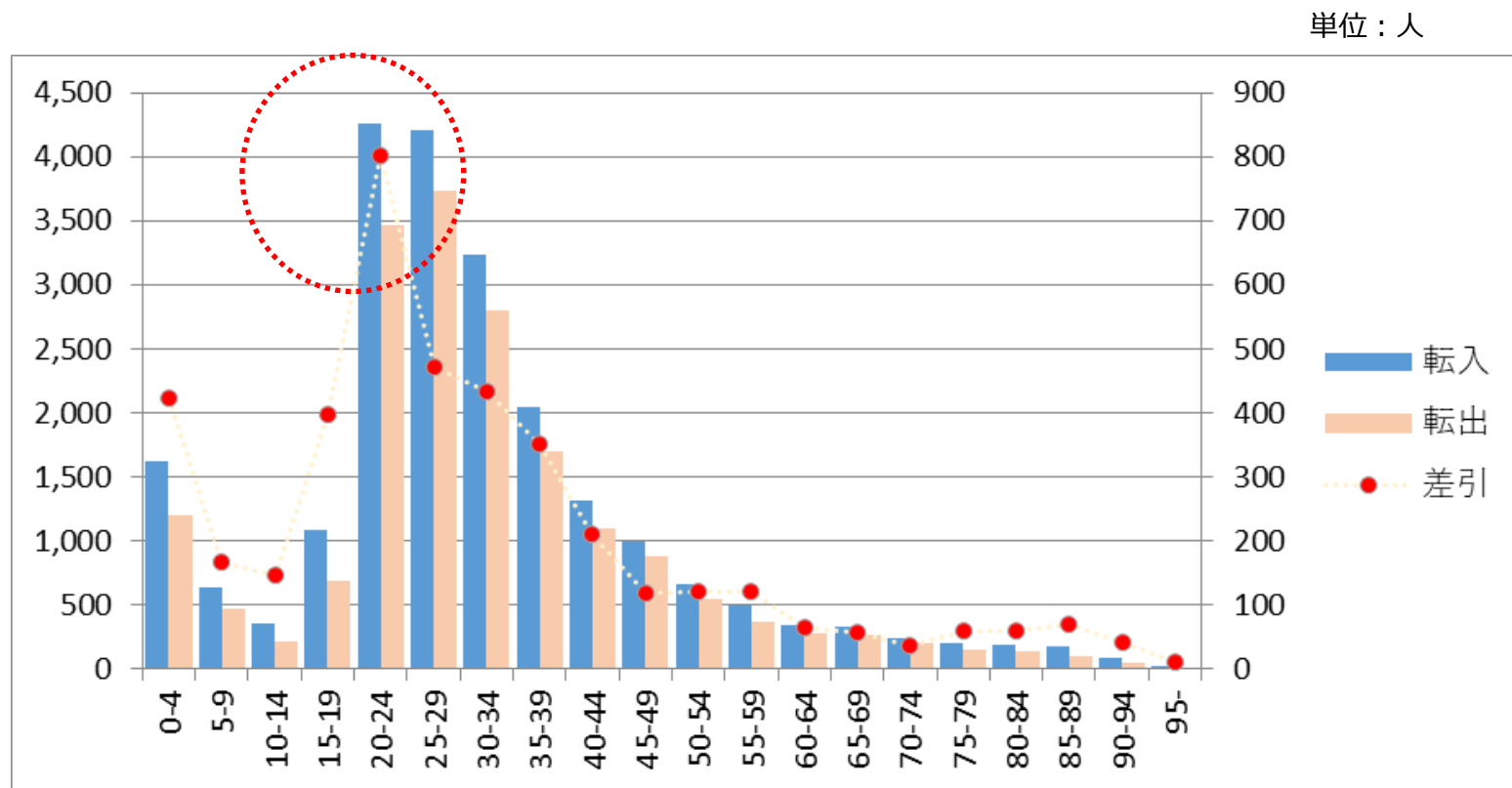


- 居住者の人口ピラミッドとは形状が明らかに異なります。
- 住まいを超えるタイミングは、「進学・就職」、「結婚・出産」が中心と考えられることから、転入出は、20代～30代と乳幼児が中心です。
- 特に転入において、22歳と24歳のグラフが突出していますが、22歳で実家を離れた新卒者が賃貸住宅などに住むものの、2年後の契約更新などをきっかけに行政境を超えて住まいを変えるケースが多いと推察します。





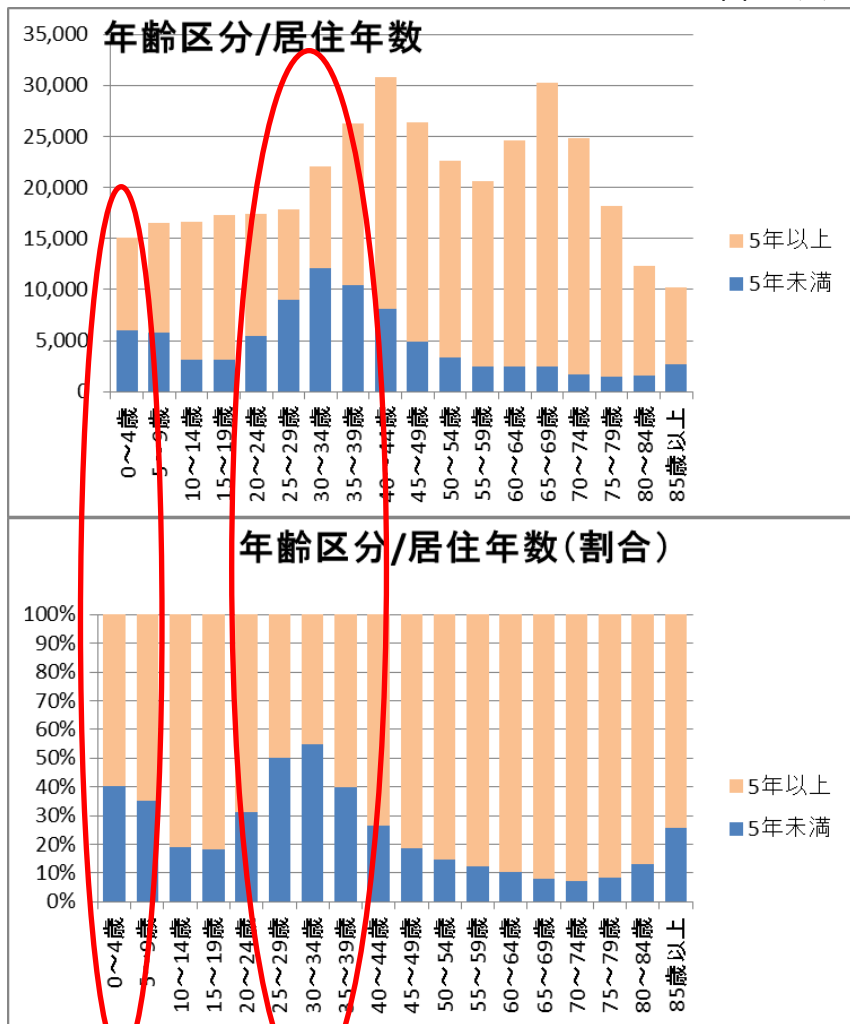
## 転入出の動向（年齢構成）②



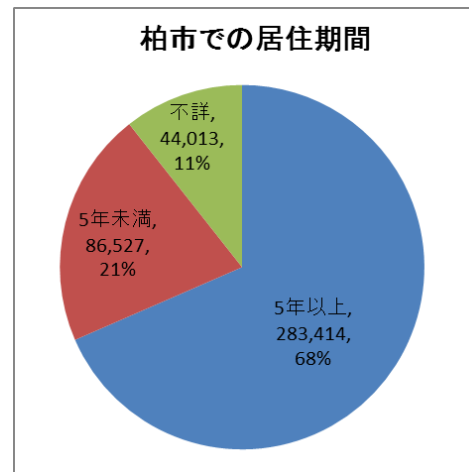
- 差引（転入超過）も20代～30代と乳幼児が大きな割合を占めます。
- ただし、20歳～24歳の転入超過が突出して大きくなっています。
- 乳幼児の転入超過が大きいことから、住宅供給量に応じて、若いファミリー層が順調に流入していることがうかがえます。

# 柏市民の居住年数

単位：人



いずれも「H27国勢調査」より



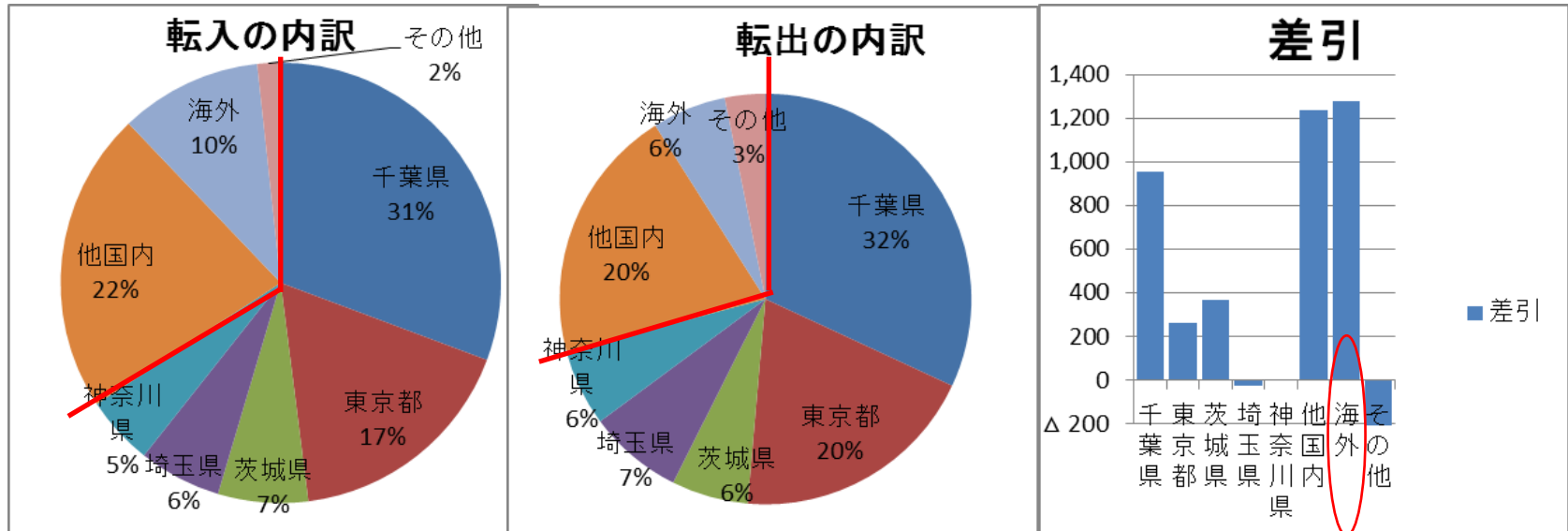
- 年齢区分ごとに、居住年数を5年で区切って、実数と割合を表しています。
- 全体では、5年以上が7割程度、5年未満が2割程度です。
- 人口移動のボリュームが大きい年齢層では、居住年数が5年未満の割合が高くなっています。
- 転入者は、比較的短い期間で転出する割合が高いという分析結果が出ています。

# 転入出の動向

単位：人

	千葉県	東京都	茨城県	埼玉県	神奈川県	他国内	海外	その他	合計
転入	6,993	3,940	1,505	1,382	1,153	5,042	2,375	389	22,779
転出	6,038	3,676	1,137	1,407	1,146	3,801	1,098	601	18,904
差引	955	264	368	△ 25	7	1,241	1,277	△ 212	3,875

千葉県常住人口調査



千葉県常住人口調査より

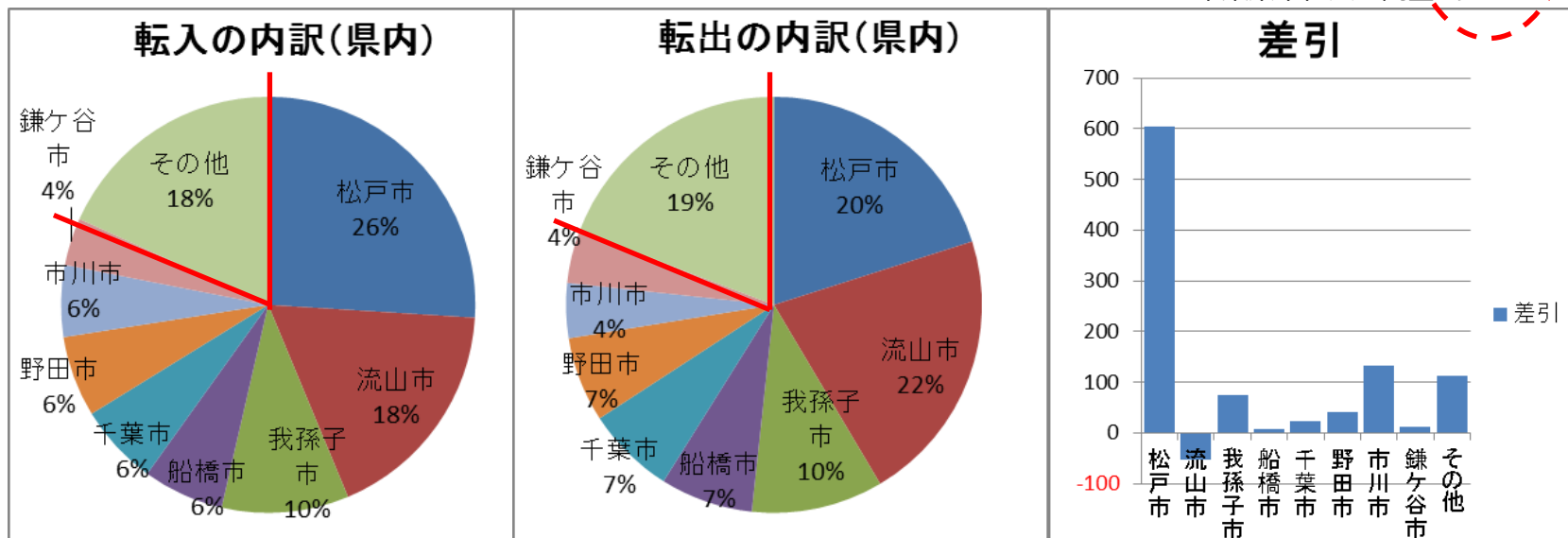
- 転入元，転出先の割合を表しています。
- 転入数，転出数ともに首都圏の1都3県+茨城県の計5都県で約2/3を占めています。
- 外国人の流入増加により、「海外」の転入超過が1200人を超えています。

# 転入出の動向（県内）

単位：人

	松戸市	流山市	我孫子市	船橋市	千葉市	野田市	市川市	鎌ヶ谷市	その他	合計
転入	1,817	1,239	693	442	441	439	389	258	1,275	6,993
転出	1,212	1,292	618	435	417	399	257	246	1,162	6,038
差引	605	-53	75	7	24	40	132	12	113	955

千葉県常住人口調査より



千葉県常住人口調査より

- 千葉県内における転入元，転出先の割合を表しています。
- 2018年中，県内からの転入者は約7,000人，転出者は約6,000人で，約1,000人の転入超過となりました。
- 松戸，流山，我孫子，野田，鎌ヶ谷など「東葛飾5市」と千葉，市川，船橋の各市で8割を超えています。
- 「松戸市」の転入超過が約600人，全体の6割以上を占めています。
- 以上から，転入転出は，比較的狭いエリアで，人口の多いエリア間で活発に起こっていると言えます。

# 転入出の動向（4地域別）

すべて単位：人

## 北部

入	6,922
出	4,330
差	2,592

- 平成30年中の転入出を市内を4の地域に分けて集計しました。
- 転入出は柏駅を中心とする「中部」が4割以上を占めています。
- 転入超過は、TX沿線の区画整理エリアへの流入を反映して「北部」が6割以上を占めています。
- 「南部」, 「沼南」のエリアもわずかながら転入が超過しました。

## 中部

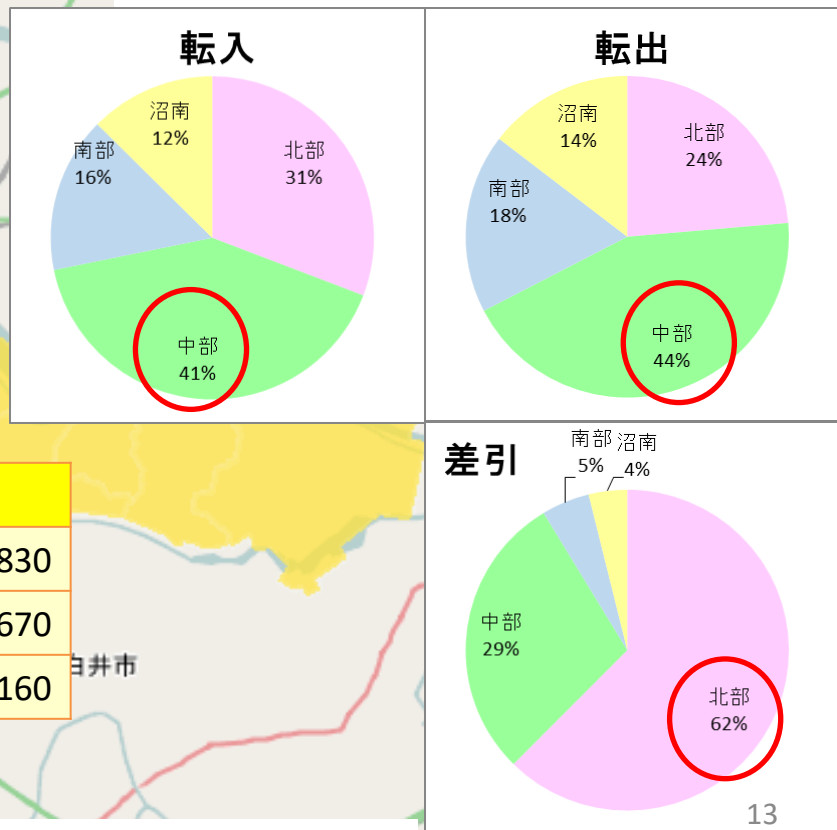
入	9,214
出	8,014
差	1,200

## 沼南

入	2,830
出	2,670
差	160

## 南部

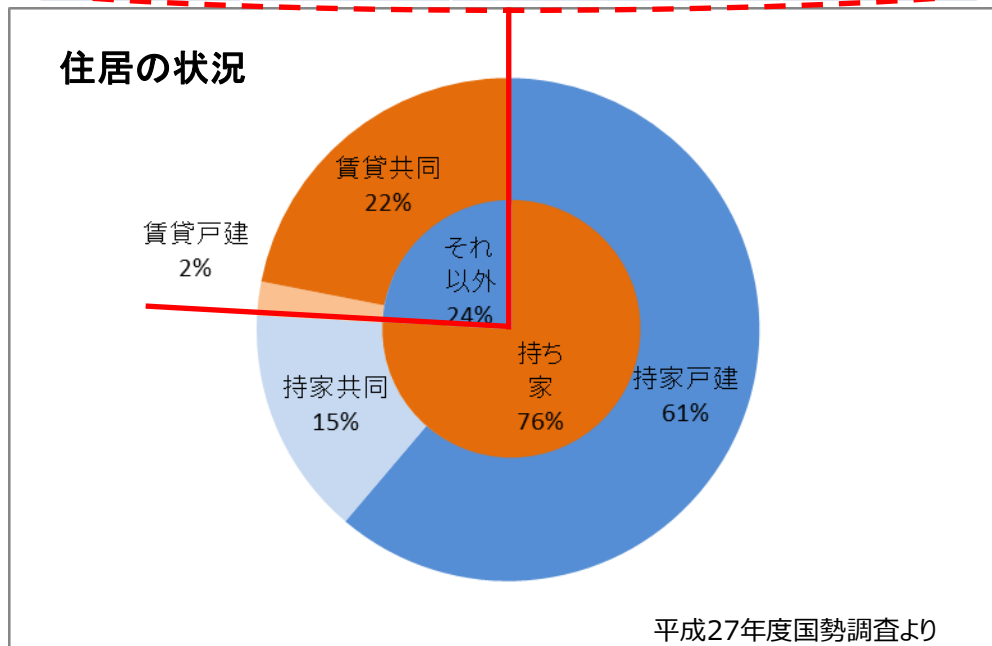
入	3,505
出	3,305
差	200



# 柏市民の住居

単位：人

	持ち家	賃貸・社宅など	合計
一戸建	246,863	8,720	255,583
共同住宅等	59,300	88,476	142,685
合計	306,163	97,196	403,359



- 昭和30年代後半から平成初期を中心に大量の分譲住宅が供給され柏市の人口規模は40万人を超え、そのうち30万人以上が持ち家に住んでいます。
- 一方で、約10万人が賃貸住宅等に住んでいますが、必ずしも柏市に住む必要の無い方も多数いると考えられ、転入転出の大きな割合を占める層であると推察されます。

# ■ なぜ「柏市」なのか？

「平成30年度まちづくり推進のための調査」 問7-1 より

対象：「柏に1年以上お住まいの方」（n = 1,676 複数回答可）

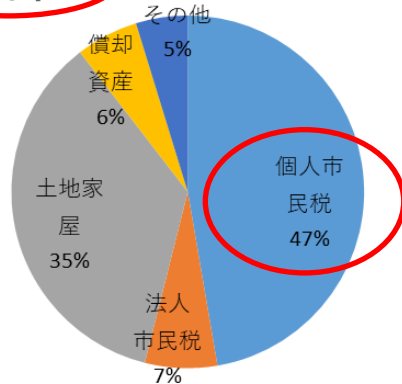
✓ 住宅条件(価格, 家賃, 広さなど)が良かったから	44.0%
✓ 通学・通勤がしやすそうだったから	35.8%
✓ 買い物など生活するのに便利そうだったから	26.0%
✓ 緑などの自然環境が良さそうだったから	17.3%
✓ 親の転居に伴うもの	13.5%
✓ 道路・交通網・・・, 子育て環境・・・, 街並み・・・, 治安・・・, 教育環境・・・	7.6%      7.1%      9.4%      7.3%      3.6%

- 「住居の経済性」と、「生産・消費行動等に際しての利便性」が高い割合を占めています主たる要因です。
- 行政の施策に関連しそうな要因を挙げる人の割合は、いずれも10%未満でした。

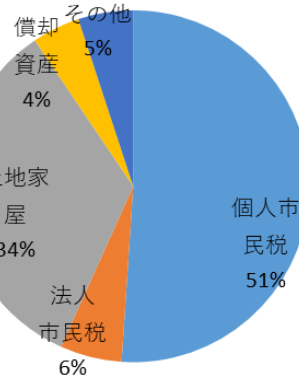
# 柏市の特徴（税収構造）

## 法定目的税の内訳

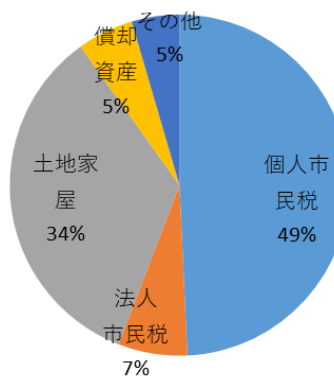
柏市



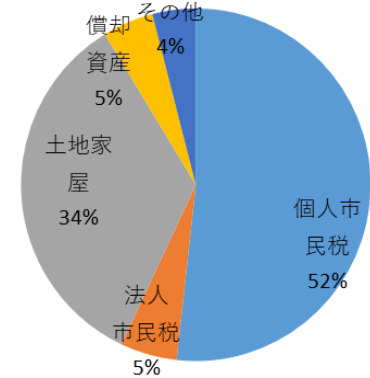
松戸市



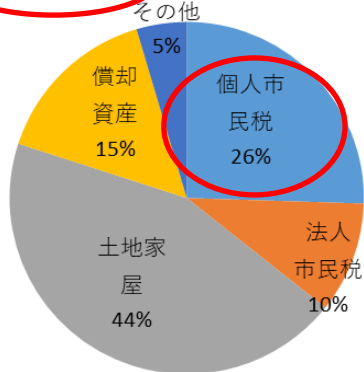
船橋市



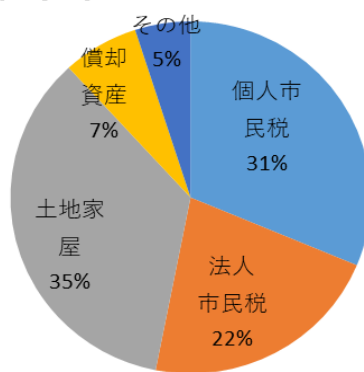
市川市



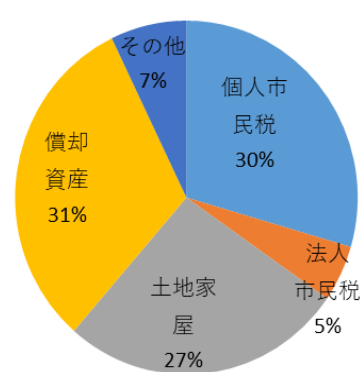
成田市



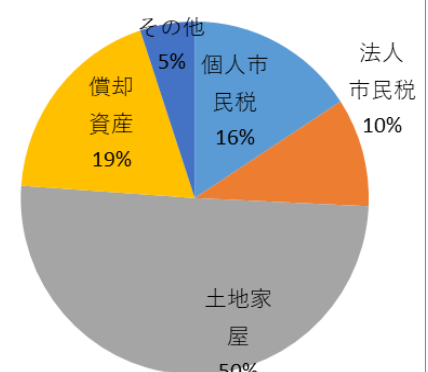
厚木市



君津市



芝山町



- 柏市を含む上段の各市は、いずれも個人市民税が高い割合を占めています。したがって、人口動向の影響を受けやすい税収構造と言えます。
- 下段の各市町は、特殊な税収減があるため個人市民税の割合が低めです。

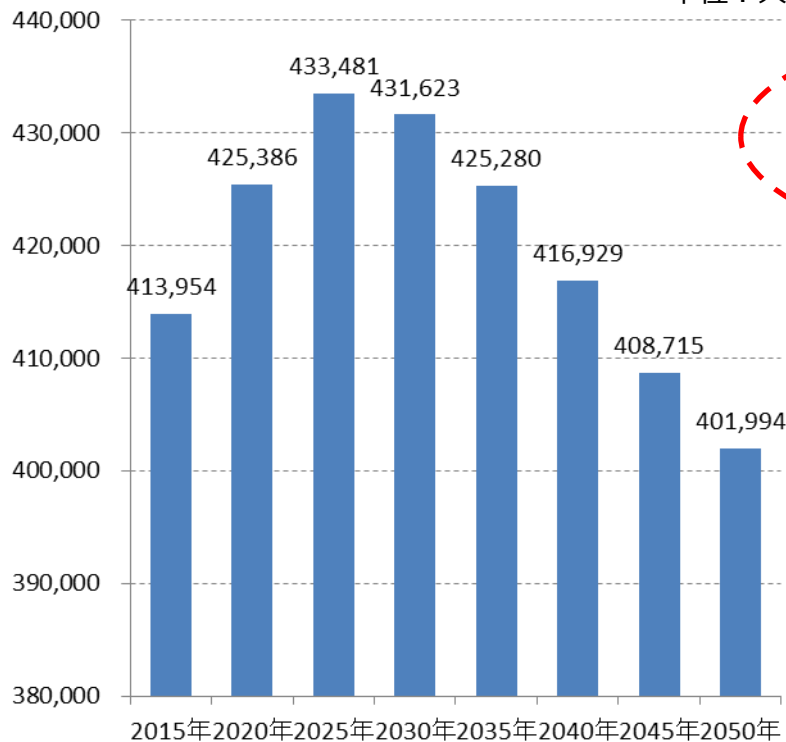
平成29年度地方財政状況調査より



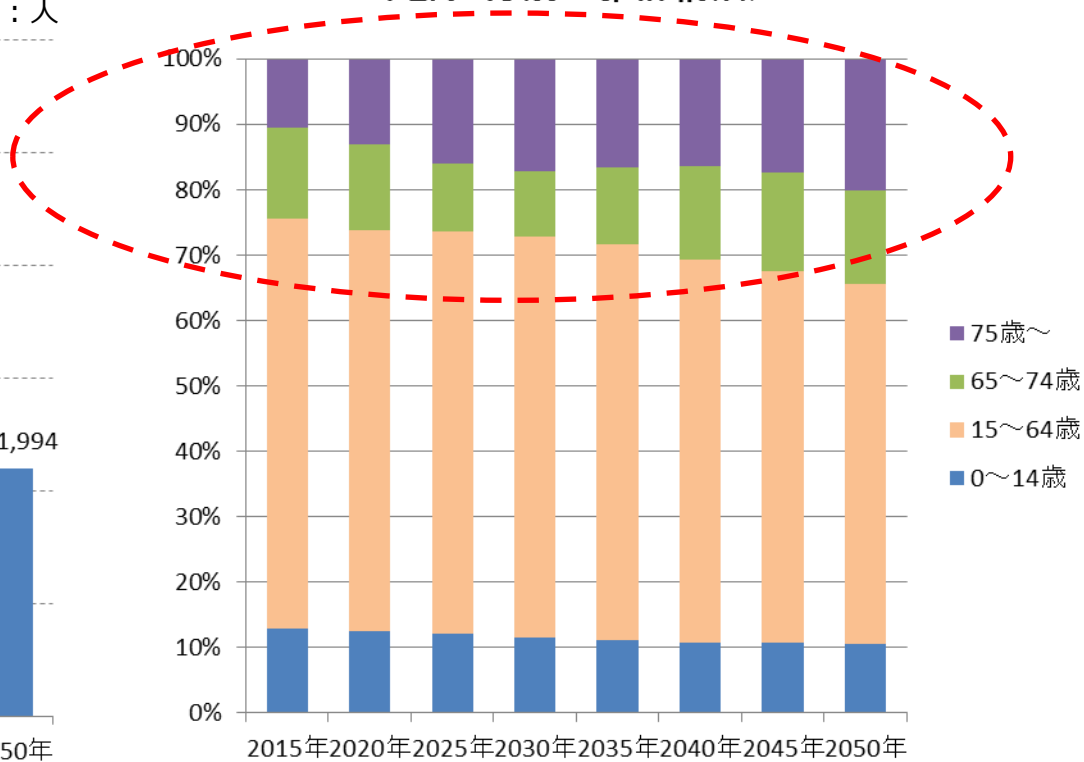
# 今後の人口推移の見込

## 将来推計人口

単位：人



## 年齢区分別の推計構成比



柏市平成29年度地方財政状況調査より

- 柏市の人口は、今後2025年までは増加し、その後2030年までは微減、2030年以降から本格的な減少局面に入る見込みです。
- 15歳～64歳の人口（生産年齢人口）の割合が下降し、65歳以上の人口（老年人口）の割合が上昇します。
- 特に、2030年までは75歳以上（後期高齢者）の人口の割合が大きく上昇しその後高止まりする見込みです。

- 昼夜間人口比率や税収の構造から、柏市は、「人口依存度」が高い、いわゆるベッドタウンであると言えます。
- 人口は増加傾向にありますが、2030年以降は本格的に人口が減少し、構成にも変化が生じ、生産年齢人口の割合が低下し、後期高齢者の割合が上昇する見込みです。
- 人口の移動は、比較的近隣の地域間で起こりやすく、20代～30代と乳幼児がその中心です。
- 柏市民のうち、30万人強が持ち家に、約10万人が賃貸住宅等に居住しています。
- 賃貸住宅等に住む層は、短期間で移動する傾向がありますが、市内に新しく供給される分譲住宅に若年層が流入していることで、人口が増加傾向にあると推定されます。